SHUNPUUKAI LIBRARY INFORMATION

NO.59号 平成30年11月15日
社会福祉法人 春風会 広報誌

はるかぜ

発行 社会福祉法人 春風会 理事長 石川三義 〒410-0302 静岡県沼津市東椎路1742-1 TEL 055(967)1166(代) FAX 055(967)3566 春風会HPアドレス http://www.shunpuukai.com/

運動会（あまぎ認定こども園）

「終活」を考える

法人本部 本部長 木内 和実

「終活」という言葉もすっかりなじみのあるものとなりました。テレビのコマーシャルで目にする機会も増えました。自らの死を意識して人生の最後を迎えるにあたって摂る様々な準備の事で、十年ほど前に週刊誌が使った造語だということです。

私事で恐縮ですが、八月に母を亡くしました。死因は腹部大動脈りゅう破裂。検査のために病院を受診している最中の事でした。高齢でもあり、介護度4で、ぬくもりの里のデイサービス、プレーゲおおひとのショートステイを利用していましたし、食欲も落ちていましたので「死」を意識しないでもありませんでしたがやはり突然の事でした。家族・親戚への連絡、霊柩車の手配、葬儀社や住職との葬儀打ち合わせなど気持ちが焦るばかりでした。幸いにも葬儀までは日がありましたので、それなりの準備はできました。母が生前、「自宅から送り出してもらいたい」「念仏講をしてもらわないと向こうには行けない」としきりに言っていたのを覚えていましたのでこの二つはかなえてあげることができました。

それでも、しておけばよかったと思うことは少なくありません。自分自身の終活を考えるにはまだ早いとは思っていますが、高齢となった親の終活は考えておく必要があります。認知症になったらどこで、どういう生活を送れば良いのか。相続・贈与のこと、そして葬儀のこと。

「ついに行く　道とはかねて聞きしかど　昨日今日とは　思わざりしを」古今和歌集に収められている在原業平の歌ですが、特別養護老人ホームは常に「昨日今日」を考えていかなければならない施設です。そこでの日々をいかに快適に過ごすか、どのように穏やかな最期を迎えるか。そこに働く職員は、その職種に差はあれ、それぞれが利用者とその家族に寄り添い、共に「終活」を考え、演出していくプロデューサーであり、コーディネイターであって欲しいと思います。

ふじのくに ケアフェスタ 2018

ぬくもりの里ダブル受賞!!

- 食事(重度)部門で最優秀賞
- 個別援助計画(重度)部門で会長賞

9月15日・16日の2日間、今年で7回目を迎える静岡県主催による介護の魅力を発信するイベント『ふじのくにケアフェア２０１８』が静岡市にあるツインメッセ静岡にて開催されました。

春風会は、第一回からこのイベントにブースを出展し法人の紹介を行ってきました。今年度は、初日に法人職員によるアロマハンドケアセラピーの実演、二日目は「あまぎ認定こども園」及び「なかいず認定こども園」の建設に際し、ご協力をいただいた、伊豆市在住の切り絵作家、水口千令氏による切り絵の実演を法人ブースで行いました。また、介護職員による介護技術コンテスト・ケアコン２０１８へ今年も各施設の若手職員が参加しました。この介護技術コンテストへは過去のケアフェスタにおいて法人職員が多く参加し九名の職員が最優秀賞を受賞して来ました。

「自分の介護技術は正しいのか第三者の評価を受けてみたい」

「人前で人に見られて介護した経験もなく緊張する」

など、参加者から不安の声も聞かれましたが、その様な状況の中、ぬくもりの里の榊美紀介護士が食事(重度)部門で最優秀賞を頂くという大変な名誉を賜りました。また、同時に審査が行われました、介護技術コンテストの個別援助計画では、ぬくもりの里が重度部門において静岡県介護福祉士会会長賞に選ばれ、ダブル受賞となりました。

この個別援助計画の作成は、今年度からの新たな試みとして、事前に発表された介護技術コンテストの問題について、事業所や施設としてどの様に対象者に支援を行っていくかという個別の援助計画を事前に作成・提出し、当日のコンテストにてその計画に沿った支援の実践や支援内容、介護技術を総合的には評価し、事業所・施設を表彰するものです。私たちの提供するケアは独りで行うものではなく、様々な職種や同僚と協働して提供するものです。今回のぬくもりの里の受賞は、個人ではなくチームとして表彰されました。春風会の施設でも介護人材の不足に伴うＩＴ化やＥＰＡによる外国人介護職員の雇用の拡大が進んでいます。限られた職員で安全で快適な介護サービスの提供が求められています。私たち春風会の職員は、これからも職員一人ひとりが協力し、より良いチームケアの実践に心掛けて参ります。

介護技術コンテスト参加者

軽度部門

食事介助部門
岸　栄太郎（ぬくもりの里）

入浴介助部門
松蔭　寧々（あしたかホーム）

排泄介助部門
林　美里（プレーゲあしたか）

重度部門

食事介助部門
秋山　卓也（みはるの丘浮島）
齋藤　美鈴（北狩野ケアセンター）
榊　美紀（ぬくもりの里）

入浴介助部門
山木　城司（伊豆中央ケアセンター）

EPAに基づく外国人介護福祉士候補者の受入活動

フィリピン
現地説明会の様子

介護人材の不足は、数年前から言われています。特に、団塊の世代が75歳以上となる二〇二五年には、三人に一人が65歳以上となり、介護人材が38万人に不足するというデータも出ております。介護職の採用は年々困難となり、春風会においても、数年前から新規学卒での介護職の採用人数が、減少しているのが現実です。

介護人材の確保の為、春風会ではＥＰＡによる外国人介護士の受入れを、平成二十四年度から行ってきました。（※ＥＰＡの概要は下記記載）初年度はフィリピンから、一名の候補者の受入れを行い、彼女は四年間あしたかホームで勤務し、現在は母国で看護師として働いております。平成二十四年の受入れ以降、候補者の受入れはなく、昨年度から、新たに外国人候補者の受入れ活動を行ってきました。数年前であれば、ＥＰＡ候補者を受入れる施設も少なく、マッチング（候補者と施設の雇用関係の締結）も比較的容易でした。しかし、近年は受入れ施設が大変多くなり、現地（フィリピンやインドネシア）での合同説明会に参加しないと、マッチングが出来ないのが現状です。今年度、春風会の求人募集は、フィリピンに「あしたかホーム」「伊豆中央ケアセンター」から各二名、インドネシアには、「ぬくもりの里（プレーゲおおひと）」、「みはるの丘浮島」から各二名、法人全体で計八名おこないました。そして、七月にフィリピン、八月にインドネシアと各施設の職員が、現地合同説明会に参加しました。説明会に参加した各国の候補者は、日本での就労意欲が非常に高く、施設側からの説明に熱心に耳を傾け、多くの質問がなされました。特に、宗教に対する理解や、受入実績、日本語の勉強時間の確保、施設周辺の環境、給与・休日の制度についての質問が、多くみられました。

現地合同説明会のち、十月にマッチング結果が発表され、「あしたかホーム」ではフィリピン人候補者二名（男性一、女性一）、「ぬくもりの里」はインドネシア人候補者二名（女性二名）、「みはるの丘浮島」もインドネシア人候補者二名（女性二名）がそれぞれマッチングされました。六名の候補者は、来年の十二月頃、各施設で勤務を開始する予定です。

来年度以降も引き続き、ＥＰＡ等の制度を活用し、外国人介護士の受入れを積極的に行っていくと同時に、施設側の受入れ態勢の充実も図っていきたいと考えております。

インドネシア

制度	趣旨・目的	対象国	対　象	在留期間
EPA（経済協定提携）	二国間の経済連携協定に基づく連携強化	フィリピン、インドネシア、ベトナム	母国での看護学校卒業者又は一定の学校を卒業し、介護士認定を受けた方	上限４年間の就労。介護福祉士の資格取得後は引き続き就労可能

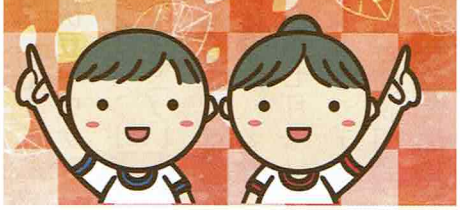
ＥＰＡの概要と今後のスケジュール

EPA による候補者の受入は、平成 20 年度のインドネシアからスタートし、翌年の平成 21 年度はフィリピン、平成 26 年度からはベトナムが加わった。

平成 29 年度の受入れ人数は、3 か国の合計で約 750 人。平成 20 年度からの累計数は約 3,500 人超となる。

今年度マッチングした候補者は、11 月上旬から母国で 6 か月間の日本語研修を実施後に入国。訪日後は大阪で 6 か月間の導入研修を受ける。実際に施設で勤務を開始するのは、2019 年の 12 月頃となる。

昭和五十八年から実施
法人独自の青少年福祉教育
（小中学生福祉体験学習）



春風会では、昭和五十八年より福祉体験学習を開始し、法人全体でこれまで延べ一万人近い小中学生を受け入れています。その目的は、第一に福祉施設で生活されているお年寄りとのふれ合いを通して、自分たちに出来ることを体験し、今後の生活に役立てていただくこと。また、高齢者の生き方や後ろ姿から命の尊さを学んで頂き、思いやりの心を養うことにより豊かな人間愛を育てる場としていただくことです。参加した生徒さんには、終了後に感想文を書いていただき、例年感想文集を作成し、学校及び個人宛に配布しています。以下、この感想文の内容の一部を紹介します。

・利用者さんは、しゃべれない方もいらっしゃるので、「職員の方は心の声を聴いているんだな」と思いました。（愛鷹中一年生）

・人と接することがこんなに楽しいなんてびっくりしました。頑張った分だけ人の笑顔が生まれると、自分も温かい気持ちになります。（門池中二年生）

・福祉の仕事は、命と命が関わってこその仕事だと思いました。（浮島中三年生）

福祉体験から福祉施設に就職

このような法人での福祉体験によって進学先を福祉科にする方や、また福祉の仕事を選ぶ契機となった方も多くいます。近年の一例をご紹介します。清水愛歌さんは、現在大妻女子大学の人間福祉学科の一年生です。あしたかホームには、門池中の二年生の時に日帰り三日間のコースで体験学習に参加しました。以来三年生でも参加し、桐陽高校進学後も毎年夏休みには、ホームを訪れてお年寄りと交流を持ちました。ご本人曰く「体験が終わると、『またやりたい』という気持ちになります。福祉の仕事はやりがいがあって楽しいです。この体験から大学で福祉について学ぶことを決めました」とのことです。将来についても「あしたかホームのような施設で働きたい」と言っていただいています。この清水さんの他にも、秋の職場体験やサマーショートボランティアに参加した学生が来年度の被採用者であったり、将来の就職希望者もいます。このような人材確保の面だけでなく、豊かな人間愛を育てるという法人の青少年教育が各方面に効用していると考えます。

今後も未来を支える人材育成の一助となるよう、法人全体でより多くの小中学生の受入れを継続していきます。

高校生福祉体験 IN いずし
ふらっと月ヶ瀬

伊豆市社協の主催する、伊豆総合高校が対象の福祉体験が行われました。将来福祉の道を希望する九名が参加し、体験を通じて、「高校生の自発性・協調性を深め、これからの地域福祉や地域社会への関心を深めること」を目的に実施しました。今回は静岡県青少年指導者級別認定取得者も参加しました。事前のオリエンテーションで、「ふらっと月ヶ瀬」では、児童、高齢者、障がい者と多くの方々と触れ合えるので、魅力的であると話していましたが、今まで障がい者の方と触れ合ったことがない学生が多く心配が大きかったようです。

三日間の体験で、参加者皆、多くのことを学ばれ、心配していた障がい者の事業所「プラム」の体験でも大きな収穫があったようでした。

【感想文より】

・プラムを体験して偏見を持っていた自分が恥ずかしくなりました。とても充実した三日間でした。

・子ども達が高齢者や障がい者と関わることで、将来とても良い子になると思いました。こんな施設がいっぱい出来ればいいと思いました。

・プラムで、私がミスをしたらしっかり教えてくれて楽しくて、「普通の人と変わらないんだな」と思いました。

・体験をして自分の中の障がい者のイメージが変わり、貴重な体験でした。

など、感想からとても多くの事を学ぶことが出来て、三日間ではありましたが、多くの気づきがあったようです。お疲れ様でした。

夏休み体験学習（お礼手紙と折り紙）
あしたかホーム

今年度もあしたかホームでは、小学生・中学生夏期体験学習を実施しました。小学生（五・六年生）は市内五校十四名、中学生は市内五校十九名の参加がありました。

今年度ご紹介したいのは、一泊二日コースで体験学習した大岡中三年生の放生会英寿（ほうじょうえ ひでとし）さんです。一日目は入居、二日目はデイサービスで学習したのですが、体験学習終了後に宿泊した部屋に行くと、放生会さんからの手紙がありました。

『1泊という短い期間の中で様々なことを教えて頂き有難うございました。この経験は将来役に立つかと思います。そして一生の思い出に残ると思います。楽しい事や大変な事、たくさんやらせてもらいました。お礼としては何ですが、私の作った折り紙です。本当にありがとうございました。

沼津市立大岡中学校
放生会　英寿』

この手紙とともに、たくさんの折り紙をプレゼントとして頂きました。現在廊下に展示し、多くの利用者に鑑賞して頂いています。

また、後日、放生会さんが改めてミッキーマウス型の装飾品も届けてくれました。

今後も体験学習を継続していきたいと思います。

もくせい苑

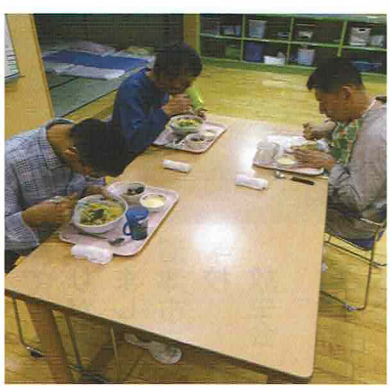
伊豆の国市の「ベンチプロジェクト」をご存知でしょうか？市内の建設業者が地域貢献の一環として木製のベンチを作り、商店などのスペースに設置することで、地域住民の憩いの場を作り、お年寄りの閉じこもり防止と、子供たちとの世代間交流や見守りを目的とした取り組みです。ベンチ作りの担い手と、設置の担い手の輪も増え、この夏もくせい苑利用者とのコラボレーションにより、新たな手形ベンチが仲間入りしました。

ベンチは「伊豆の国市明るい社会をつくる会」が材料を提供し、大仁大工組合が組み立てたものを、八月に開催された「きにゃんね大仁夏祭り」の会場にもくせい苑の利用者が最初の手形を押し、祭りに参加している子どもたちや地域住民に参加の呼びかけを行い、座面や背もたれに手形を押してもらいました。もくせい苑利用者も、次々に手形が増えてゆく様子を見て、思わず笑みがこぼれていました。

完成後に設置場所提供してくれた元よろづや小川商店さんを訪ねると、通りがかった近所の方が座っており、「人が集まってくれるのが嬉しい」と話を弾ませていました。

あおばの家

あおばの家が重度障害者の通所デイサービスとして日帰り利用を主体に設立されて既に二十年が過ぎました。この間、障害者自立支援法等の制度の変更により様々なサービスの変遷があり現在の生活介護としての利用形態となっています。現在、あおばの家の利用者にはあおばの家と短期入所施設（ショートステイ）との併用をしている方も何名かいます。しかし、多くの利用者は短期入所施設等を利用していないのが現状です。そうしたなか、あおばの家の利用者が住んでいる市町には入所施設や短期入所施設の数は少なく、ベッドの確保は非常に困難なものとなっています。その為、あおばの家では今後利用者やご家族への長年の支援が必要であるため、将来に向けてご家族の急用等による入居施設や短期入所施設への利用の足掛かりとなるべく、ご家族の利便性に即した「宿泊体験」や「利用時間の延長」「送迎時間の変更」等を実施し、これらを組み合わせることにより利用者が安心してご家族との生活を楽しめるよう取り組んでいます。この取り組みは失敗や成功を重ね今年で三年目を迎えています。現在ではご家族や利用者より、次回の宿泊体験を楽しみにしているとの声も聞かれるようになりました。この取り組みは今後「日中一時支援事業」や「ライフサポート事業」に繋げ、今後もより利用者、ご家族に安心してあおばの家をご利用いただけるよう努めてゆきたいと考えています。



第11回 ふれあいの集い ～未来につながる絆～

今年で第十一回目となる「ふれあいの集い」は、平成三十年十月三日に伊豆の国市のアクシスかつらぎを会場として開催されました。

ふれあいの集いは、春風会の障がい者部会の救護施設、生活介護事業所、就労支援B型事業所、ケアホーム、地域活動支援センターの各利用者や家族、職員の交流を目的として昨年までは沼津市立高尾園のグラウンドを会場として運動会形式にて行われてきました。

今年度は新たな試みとして、地域住民への障がい者への理解をより一層深めると共に、障がい者の方が多くの方とのふれあう機会を設けるため、会場をアクシスかつらぎに移し開催しました。

当日は、利用者による歌や踊りのステージ発表のほか、ミニゲームコーナーの設置、各施設で作った縫製品や農作物の販売なども行われ、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。これからも障がい者部会では障がいを持った方が地域に出て活動をする支援を行っていきたいと思います。

「あゆみの会」&「糸の会」（高尾園協力ボランティア）

沼津市立高尾園利用者の生活支援や行事・イベント活動にご協力頂いているボランティア様を紹介致します。

『あゆみの会』様

毎月一度来園して、ふれあい広場をはじめ、地域展示会やサロンでの販売に向けた縫製品製作への御指導ご協力を頂いております。利用者も一緒に小物作りやバック製作を行う事を楽しみにしております。

『糸の会』様

二か月に一度来園し、利用者の衣類の補修や名札付けを行って頂いています。又、納涼祭や施設イベント交流にもご協力頂いております。十月三日に開催された、ふれあいの集いでは、輪投げコーナーを担当して頂き、高尾園の利用者をはじめ、各施設の利用者と一緒に楽しい時間を共有することが出来ました。

沼津市立高尾園は、今後もボランティア様をはじめ地域の皆様の御支援を励みとして、共に愛され支え合う施設を目指して参ります。

高尾園

永年利用者のご紹介

ふれあいデイサービス（伊豆中央ケアセンター）

「ふれあいデイサービス」では現在百歳以上の方が三名ご利用になられています。

今回ご紹介させていただく方は、渡辺しな様一〇三歳の方です。

平成十四年の十月よりご利用されており、十七年目のご利用となっております。一〇三歳を迎えた現在でもとてもきれいな貼り絵を行ってくれています。

長寿の秘訣は、なんでもよく食べ話したいことは何でも話しストレスをためないことだそうです。これからも元気にデイサービスに通っていただければと思います。

渡辺　しな 様

貼り絵作品

みはるの丘浮島

植松　芳子 様

平成十八年五月より「みはるデイサービス」を利用開始しました。その後、ショートステイも利用を開始し、当施設のサービスを十二年利用して頂いています。現在も元気に利用されており、ご本人へインタビューさせていただきました。

Q デイやショートで楽しいことは何ですか？

A 塗り絵をすることが楽しみです。今は、塗り絵専門です。

Q 芳子さんの生きがいは何ですか？

A 裁縫・刺し子やフェルトで小物を作ったりすることです。家やショートでも合間にもやって、人にあげるのが楽しみです。

Q デイやショートの職員さんの対応はどうですか？

A みんな頑張ってやってくれていて感謝しています。

Q 最後に長寿の秘訣を教えて下さい。

A 早寝早起き!!
寝る前に足裏を百回ずつ叩くこと!!

ぬくもりの里

小澤　都 様

平成十五年三月に「ぬくもりの里」に入りました。早いもので十五年お世話になり今では長老となり驚いています。家族の大黒柱として自慢できる位、働いていましたが昭和五九年に脳梗塞で病院等で車いすの生活が始まりました。性格上、集団での生活が苦痛で、同じように気の強い方との喧嘩の日々。顔を見るだけで「見るな！」「馬鹿野郎」と罵声を出すのが日常茶飯事で職員さんにしばしば怒られました。拗ねて断食をし体調を崩し入院することもありました。冬に病院で年越しを迎えることも多く職員さんから「ぬくもりの里で年越しをしましょう」と声を掛けられ近年は体調を崩さず過ごすことができています。毎日喧嘩をしていた仲間も次々と他界し寂しさを感じています。思い出は、元ぬくもりの里の事務長さん（現みはるの丘浮島の施設長）が異動になり新しい沼津の施設に見学に行きたいと希望し実現することができました。屋上から見た駿河湾の景色は忘れられません。やりたいことはやらなきゃ気がすまない私です。話が大好きで普段見られない人が来たら昔の思い出話や日頃の愚痴を聞いてもらいストレス発散。今では職員さんに支えられ感謝の日々です。これからも宜しくお願いします。（談）

あしたかホーム

菊地　あさ子 様

菊地様は平成元年十二月一日より、「あしたかホーム」で暮らしていらっしゃいます。十二月で八九歳のお誕生日を迎えられますが、写真のとおり、当時と少しもお変わりなく若さを保たれています。

いつも、お洒落に気を配り人と会う事を楽しみにされている事が若さの秘訣ではないでしょうか。

これからもお元気にお過ごしください。

「あしたかホームデイサービスセンター」は今年で開設三十八周年を迎えます。その中の永年利用者様は、三十四年目を迎える伊海絹江様です。若くして脳梗塞を患ってしまい、当時はリハビリ後の通所施設があまり無く、運動や入浴ができるサービスを探していたそうです。

利用当初は不安もあったそうですが、実家も愛鷹地区であった為徐々に利用に慣れ、リハビリや手芸等の活動を楽しまれていったそうです。

現在は、ベッドで過ごされる事が多くなっていますが、週一回の利用時は、他利用者の皆さんが伊海様のベッド周りに集まり、交流されています。また、「あしたかホーム」の行事を楽しみにされていて、納涼祭やホーム祭りの日は、ショートステイを利用され、お祭りに参加されています。特に納涼祭では、火舞を観覧され、参加する職員の子供たちの成長も楽しみにして下さっています。

これからも、「あしたかデイサービス」が伊海様にとって生活の活力になるよう、短期目標として、四十周年記念式典にご出席頂けるよう、職員一丸となって支援を継続してまいります。

伊海　絹江 様

人生の土台づくり
なかいず認定こども園

こども園に入園して二年になりました。この二年間は親子共々成長できることが出来ました。子どもが帰ってくると園であったことをいろいろ話してくれるのですが、今年の夏は「ミニトマト」のことをたくさん話してくれました。食の細い我が子ですが、こども園で育てている野菜は家でもたくさん食べてくれるようになりました。毎日の水やり、脇芽取り、黄色い花をつけ、緑色の小さい赤ちゃんミニトマトがだんだん色づき、真っ赤なミニトマトになるというのを体感し、友達とくらべて自分のはまだ実がつかないと心配したり、赤くなったミニトマトを大事そうに、嬉しそうに私に見せてくれました。ミニトマトの成長と共に子どもの心と体も成長したと思います。

年中の時、なかなか「ブンブンごま」が上手にできなくて家で泣いてることがありました。親子で家でも練習するために、先生に「ブンブンごま」の作り方やアドバイスをいただき、すごく上手に回せるようになりました。先生のおかげで、練習すれば出来るようになるんだという自信がついたと思います。

この幼児期に学んだ小さな成長の積み重ねがこれからの人生においてとても大事な土台となると思います。それは先生方が子ども一人ひとりに合わせて教育していただいているおかげだと思います。あと数ヶ月で卒園となりますが、ピンクの園舎を見るたびに、こども園での思い出を話したいなあと思います。最後になりますが、これからも中伊豆地区の子ども達の笑顔があふれるこども園であってほしいと思います。

（保護者　工藤　絹衣）

法人本部より

生産性向上とＩＣＴ化への挑戦

介護業界での人材不足が叫ばれる中、我々法人のスタッフの生産性を上げるべく、その一つとして「記録の電子化」に取り組み約１年半が過ぎようとしています。

遡ること３年、全国規模で開催されていた、電子化のセミナー等に参加したことが導入のきっかけでした。

電子化への移行・電子化をするメリットとデメリットを多角的に考え議論をしてきました。しかし、リスクばかりを考えなかなか前に進みませんでした。

そのような中、法人全体ではなく、まず、沼津地区のあしたかホームとみはるの丘浮島で導入をしようと考え、各施設で役職者間での意思の統一、導入施設の見学、システム業者により施設内セミナーの実施導入に向けた職員への啓蒙、委員会を発足し導入へ向けた具体的な検討の取組とソフト業者の選定に入りました。

その結果、富士データーシステムの「ちょうじゅ」を導入することとなりました。

１年遅れて、平成30年６月に、ぬくもりの里、伊豆中央ケアセンター、沼津虹の家でも電子化に移行しました。

電子化の移行にあたり、一番の懸念材料は、導入直後の混乱にありました。しかし、導入１か月で記録をスムーズにとれ大きな混乱なく記録をとることができました。これは、各施設の準備委員会が中心となり電子化への準備がしっかりできたのではないかと自負しております。

記録しながらも利用者に寄り添って

現在では、介護保険請求事務も「ちょうじゅ」を利用し、記録から請求という一連の流れを一体化し実施しています。

法人として、記録の電子化を導入し、約１年半。

当初の目的でもあった、

① ICTを活用したペーパレス化による文書量の半減

②介護記録のICT化による業務分析・標準化の推進

は、少しずつではありますが、前進し、法人の各職種別委員会でも、いかに効率よく、分かりやすい記録をとり、利用者等への自立支援に向けた取り組みを始めています。

また、各デイサービスでは、利用者宛の連絡帳を「ちょうじゅ」で出力し活用しています。今まで手書きだった連絡帳を、介護記録から自動転記し、利用時の様子の写真を添付しお渡しをしています。これは、利用者・ご家族にも大変好評を得ております。

今後、介護記録と様々な連携機能も考え、ナースコールや測定機器・複合機等への連携やデフォルト・カスタマイズを行うことで介護記録の分析と標準化・生産性の向上を図っていきたいと考えております。

それらを、入居者等へどのように反映し、自立支援に向けた根拠ある支援ができるかが最終の目標に向けて一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

法人内導入事業所数

特養・短期	４施設
デイ	８事業所
居宅介護支援事業所	４事業所
訪問介護	４事業所
障がいデイ	１事業所
地域密着特養	２施設
小規模多機能	２事業所及び請求

●春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム
〒410-0302　沼津市東椎路1742-1
TEL(055)967-1166(代)　FAX(055)967-3566

●特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402　伊豆市大野304
TEL(0558)72-8111(代)　FAX(0558)72-7297

●特別養護老人ホームぬくもりの里
〒410-2315　伊豆の国市田京1259-29
TEL(0558)76-6700(代)　FAX(0558)76-7511

●特別養護老人ホームみはるの丘浮島
〒410-0318　沼津市平沼929-1
TEL(055)969-3355(代)　FAX(055)969-3385

●障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302　沼津市東椎路1742-1
TEL(055)967-2220(代)　FAX(055)967-3566

●障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315　伊豆の国市田京1258-429
TEL(0558)76-6702(代)　FAX(0558)76-6702

●障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-2315　伊豆の国市田京1258-47
TEL・FAX(0558)76-6755

●原高齢者福祉センター
〒410-0312　沼津市原1200-3
TEL(055)968-4510(代)　FAX(055)968-4511

●ふれあいデイサービス〈デイサービス一般型〉
〒410-2505　伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL(0558)83-3380(代)　FAX(0558)83-3380

●天城放課後児童クラブ
〒410-3213　伊豆市青羽47
TEL(0558)87-1080

●中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505　伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL(0558)83-2911

●水晶苑生きがいデイサービス〈通所事業〉
〒410-2323　伊豆の国市大仁74-8
TEL(0585)76-4697

●救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001　沼津市足高156-1
TEL(055)921-5722(代)　FAX(055)921-5723

●ケアハウスはるかぜ
〒410-0318　沼津市平沼929-1
TEL(055)969-3382(代)　FAX(055)969-3383

●小規模多機型施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401　伊豆市牧之郷116番地
TEL(0558)72-8811　FAX(0558)72-8860

●地域密着型特別養護老人ホーム 小規模多機能型居宅介護支援事業所 プレーゲあしたか
〒410-0302　沼津市東椎路1639-1
TEL(055)967-3400(代)　FAX(055)967-3401

●地域密着型介護老人福祉施設 プレーゲおおひと
〒410-2318　伊豆の国市白山堂408-9
TEL(0558)76-7300　FAX(0558)76-7299

●障害サービス ケアホーム なぎの家
〒410-2315　伊豆の国市田京1258-437
TEL(0558)77-1017

●地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315　伊豆の国市田京1259-293
TEL(0558)77-1221

●複合施設 ふらっと月ヶ瀬
〒410-3215　伊豆市月ヶ瀬408-1
- あまぎ認定こども園
  TEL(0558)85-2030　FAX(0558)75-8201
- あまぎデイサービス〈デイサービス一般型〉
  TEL(0558)85-0816　FAX(0558)75-8201
- 就労継続支援B型 事業所プラム〈障害サービス〉
  TEL(0558)85-1919　FAX(0558)75-8201
- プラムカフェ
  TEL(0558)85-2551　FAX(0558)75-8201

●片浜・今沢地域包括支援センター
〒410-0874　沼津市松長12-3
TEL(055)969-7050　FAX(055)968-2177

●伊豆市修善寺地区地域包括支援センター
〒410-2413　伊豆市小立野66-1 修善寺生きがいプラザ
TEL(0558)99-9301　FAX(0558)99-9302

●なかいず認定こども園
〒410-2505　伊豆市八幡282-1
TEL(0558)75-2810　FAX(0558)75-2811

●はら居宅介護支援事業所
〒410-0311　沼津市原町中2-7-11
TEL(055)941-8333　FAX(055)941-8334